

ふるさと探訪

第43回 黒谷地区



旧東予市の山間部に位置する黒谷地区には、歴史を物語る文化財などが残っています。

市の文化財にも指定されている大元神社の杉は、目通り約7メートル、樹齢約800年といわれている巨木で、本殿前にも対になっているヒノキの巨木があり、荘厳な雰囲気醸し出しています。

頓田川の北岸の高台には延命地藏と馬頭観音をまつる黒谷庵があります。まつられている木造仏七体は、鎌倉中期から江戸時代のもので、大変貴重なものです。また、庵の隣には大正時代初期まであった庄内小学校分校跡もあり、歴史を感じる場所です。

朝倉ダムの東には、龍門山があり、鎌倉時代、長井齊

藤景忠が築城したといわれる龍門山城址があります。戦国時代末期には武田氏が居城としていましたが、天正年間に来島氏の来攻で滅亡しました。また、この城は櫛部氏も居城したとの記録もあり、山頂には石積みや井戸跡の一部も見られます。

朝倉ダム周辺は景観整備もされており、桜や紅葉のシーズンには家族連れなど、多くの人が訪れています。

■**駐車場** 朝倉ダムにはあり



(写真右上) 大元神社の大杉
(写真左上) 朝倉ダム湖と龍門山
(写真左) 黒谷庵

